

協働事業提案募集採択事業 7

〓 事業名 〓

草間台地の優れた自然環境や多様な生物をテーマとした環境学習・エコツアー

〓 事業の概要 〓

草間台地は特異な地質・地形により、多くの貴重な動植物や昆虫が生息している。その貴重な動植物の宝庫である草間台地全体を、屋根のない博物館「エコミュージアム」と位置付け、県南から誘客し、草間台地の良さを広報・発信するとともに、地元住民にも参加を促し、地域活性化を図ることを目的とした事業。

絶滅危惧種である蝶「ウスイロヒョウモンモドキ」の観察会や山野草とヒメボタルの鑑賞会、羅生門とその周辺の自然観察を行った。

〓 協働の主体・役割分担 〓

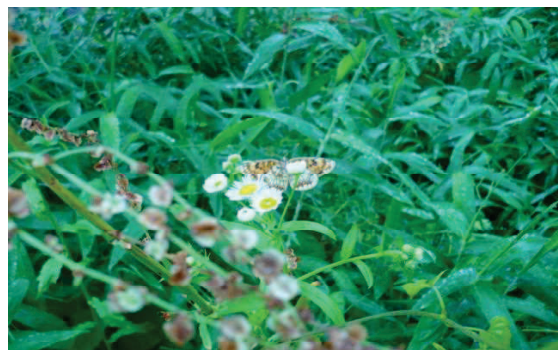
協働の主体	役割分担内容
草間台エコミュージアム推進協議会 備中県民局	事業の企画・立案、参加者の募集、保険加入、開催状況の記録・報告 企画への協力・助言、参加者募集への協力、補助金の交付

実施状況

1 ウスイロヒョウモンモドキ勉強会・観察会

- (1) 実施期日 6月16日(土)
- (2) 会場 土橋交流センター(勉強会)、土橋・新屋地区(観察会)、羅生門
- (3) 参加者数 16名
- (4) 講師 倉敷芸術科学大学教授 河邊誠一郎氏 外数名
- (5) 内容

ウスイロヒョウモンモドキについての講義を受けた後、保護ゲージ内で実際に蝶を観察した。また併せて羅生門の見学も行った。



2 山野草とヒメボタルの鑑賞会

- (1) 実施期日 7月14日(土)
- (2) 会場 草間岩中地区、羅生門
- (3) 参加者数 71名
- (4) 講師 川崎医療福祉大学元教授 梶田博司氏
- (5) 内容

岩中地区においてヒメユリ等の山野草を鑑賞し、日没後は羅生門に会場を移し、講師の案内でヒメボタルの鑑賞を行った。



3 羅生門の自然観察とピオーネ収穫体験

- (1) 実施期日 10月6日(土)
- (2) 会場 羅生門 土橋・立石地区
- (3) 参加者数 44名
- (4) 講師 倉敷市立自然史博物館 狩山俊悟氏
- (5) 内容

紅葉の始まった羅生門を散策し、講師の案内で周辺の植物を観察した。その後、県外から移住してきた新規農業就労者のぶどう畑を借りて、ピオーネの収穫を体験した。



Ⅱ 成果・効果 Ⅱ

- 1 いずれのツアーにおいても、参加者には概ね満足していただくことができ、来年度の実施を期待する声も多く聞かれた。
- 2 自然保護団体や大学教授、博物館関係者等の参加・協力を得て事業を実施することができ、地元住民とツアー参加者も交流を深めることもできた。
- 3 今回のツアー後、調査・研究のため再度草間地区を訪れるグループもあり、地域の魅力を発信することができた。

Ⅱ 来年度以降に向けての展開 Ⅱ

有効な広報手段の研究や都市住民の的確なニーズ把握、付加価値のあるツアー内容の検討を行い、来年度以降も実施する予定。

協働事業提案募集採択事業 8

事業名

GREENDAY2012 GREENDAYS COLLEGE ―企業と世代をつなぐ持続的環境教育―

事業の概要

2003年から毎年「GREENDAY」活動として高梁川の各地域で環境保全に関わる啓発イベント、講演、環境学習、エコツアーなどを実施している。

2012年度事業では、環境保全をテーマとしながら、子供から大人までの世代や企業を繋ぎ、これからの高梁川流域の暮らしの中で求められる、流域カレッジとして、地域の「学び」の場と機会を提供し、その活動を通して真に地域に資する人材を育成することや地域課題の解決の糸口を見出すことを目的にして、19の講座を実施した。またメインプログラムとして「企業と地域を繋ぐ持続的な環境教育」をテーマとした基調講演と産官民のパネリストによるフォーラムを開催した。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
GREENDAY実行委員会	事業の企画・立案、参加者の募集、保険加入、開催状況の記録・報告
備中県民局	企画への協力・助言、参加者募集への協力、補助金の交付

実施状況

実施日	講座名（参加人数）	場所	実施日	講座名（参加人数）	場所
6/2	森林間伐体験(30)	高梁	10/6	シーカヤック体験(20)	笠岡
6/16	ウスイロヒヨウモントギ観察会(60)	新見	10/6	キノコ・ウォッチング(30)	高梁
7/8	鯉ヶ窪湿原観察会(10)	新見	10/13	旧街道散策と整備計画(30)	倉敷
7/21	昆虫観察会(50)	高梁	11/13	備中志塾Ⅱ(30)	倉敷
8/4 ～8	町の匠とアーティスト」に学ぶ環境に優しいものづくり(200)	倉敷	11/18	水と食(100)	総社
8/19	「ゲーム」で学ぶ水の力と地域の力(20)	倉敷	12/12	備中志塾Ⅲ(40)	倉敷
9/8	総社の杜エコスポーツ(10) (スッタクライン)	総社	12/9	三菱自動車工場見学と電気自動車(20)	倉敷
9/10	備中志塾Ⅰ(40)	倉敷	12/9	水島の歴史と公害(20)	倉敷
9/23	高梁川源流を辿る(20)	新見	12/9	企業と世代を繋ぐ持続的環境教育(フォーラム)(50)	倉敷
			12/9	未来会議(20)	倉敷



Ⅱ 成果・効果 Ⅱ

- 1 高梁川流域で活動している団体がそれぞれ実施している19のプログラムを8つのカテゴリーに分けてGREEN DAYS COLLEGEとして開催し、プログラムによっては募集人数の2倍の参加が得られた。
- 2 メインプログラムの「企業と地域を繋ぐ持続的環境教育」のフォーラムでは、地元企業、行政、NPO等の代表者が一堂に会し、産学官民様々な立場からの報告・提案が行われ、活発な意見交換ができた。
- 3 最終の「高梁川流域の未来を考える＜未来会議＞」では、大学生や行政、地域市民活動に参加している若者等を中心として積極的な発言が多く寄せられ、未来に向けて大学や地域への更なる活動の広がりを推進することができた。

Ⅱ 来年度以降に向けての展開 Ⅱ

計画したものの開催できなかった講座が24講座中5講座あったこと及び開催した講座についても個々の内容に格差があることから、今後2年間は各地域の環境整備と講座を運営する講師人材育成及び持続的な活動とするための運営体制の構築を中心に活動する。

協働事業提案募集採択事業 9

事業名

自閉症療育セミナー及び治療教育相談会

事業の概要

発達障害に対する地域の理解や支援の気運醸成を図るため、専門家を講師とした「セミナー」と「治療教育相談会」を開催する。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
NPO岡山県自閉症協会	「セミナー」、「治療教育相談会」の企画、立案。 「セミナー」、「治療教育相談会」参加者募集、申込受付。 「セミナー」、「治療教育相談会」の実施。
県民局（健康福祉部）	「セミナー」、「治療教育相談会」の企画、立案、への協力。 「セミナー」、「治療教育相談会」参加者募集の広報活動。 地域自立支援協議会等の関係機関との関係調整。

実施状況

発達障害に対する地域の理解や支援の気運醸成を図るため、専門家を講師とした「セミナー」と「治療教育相談会」を開催した。（H24. 11. 11：笠岡市保健センター等）

- ・セミナー「発達障害児の学齢期の支援」 講師：なのはなクリニック院長 笹野京子 氏
- ・「治療教育相談会」 相談員：笹野氏の他、児相職員、西備支援学校職員 等 5 名



成果・効果

- ・（セミナー）保護者、教育関係者を中心に、約190名が参加。
- ・（治療教育相談会）8組の相談を実施。

来年度以降に向けての展開

- ・今回、参加した関係者や団体をネットワーク化して、今後も活動を強化していく。
- ・今回の事例をベースに、H25は県北西部地域で協働する方向で検討中である。

協働事業提案募集採択事業 10

事業名

地域ハートフル大作戦～ひきこもり回復支援事業～

事業の概要

不登校やひきこもり・ニート等自立に困難を有する子どもが増加するなどの社会問題が生じており、支援のネットワークの構築が急務である。

このような状況下で、早くからひきこもりの問題に取り組んでおり、居場所の提供、本人・家族への相談支援を行い、社会参加を促している。今年度はさらに地域住民の理解と支援を広げるための普及啓発活動を推進した。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
特定非営利活動法人 エブリィハート	事業の計画、実施、報告
備中保健所井笠支所	関係機関への通知及び広報 計画、実施などへの助言、補助金の交付等

実施状況

1) ひきこもりに関する啓発・広報活動

【映画上演会の開催】

8月 4日 「アンダンテ～稲の旋律～」の上演
参加者約180名



【民生委員会等での啓発活動】

6月 7日 笠岡市民生委員理事会
6月27日 笠岡市校長会



2) 支援者への専門研修の実施

6月17日 ひきこもりに関する講演会へ参加
11月28日 描画療法について
12月 5日 カウンセリングについて
1月11日 子どもとのかかわり方について

【関係機関との連絡会議】

6月20日 管内ひきこもり対策連絡会議 参加者14名

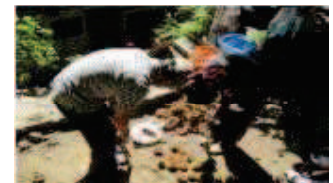
- 3) ひきこもり当事者・家族の相談
電話・面接・家庭訪問

- 4) 来所者への体験プログラムの実施
【現代手織り「さをり織り」の製作】
年間を通して随時作成
マフラー、チョッキ、ワンピース、
小物など銀杏祭りでも販売した。



【スポーツ活動、園芸活動の実施】

体育館等で卓球を行ったり、
畑をかりてサツマイモを育てたりした。



【社会活動の体験】

7月22日 野外バーベキュー 参加者27名
11月18日 笠岡市の銀杏祭りにて、作成した織物や
育てたサツマイモの販売。



成果・効果

井笠管内では、ひきこもりの居場所を毎日（月～金）提供している唯一のフリースペースである。保健所や市町保健福祉機関、教育機関等と連携しながら、当事者や家族への支援を行っており、当事者の回復に効果をあげている。また、ひきこもりに関する啓発活動を行うことで、地域住民の理解を促している。

H24年度には、小中学生の不登校の子ども23名の来所があり、そのうち19名が登校、高校生は10名のうち8名が登校した。成人のひきこもりは70名の来所者のうち、5名がアルバイト等をはじめることができた。

来年度以降に向けての展開

今年度の事業により少しずつ認知度もあがり、来所者も増加している。さらに啓発・広報活動を継続するとともに、専門研修の充実を図り支援の質を向上させる。

また、特に社会活動として、製作した小物類の販売活動や、地域の人とふれあいの場としての「ふれあい喫茶」の運営を行い、来所者の社会活動を促していく。

協働事業提案募集採択事業 1 1

事業名 草間台地の特産品・ソバの栽培による耕作放棄地の解消とキノコの原木栽培による眠っている山林資源の活用

事業の概要

1 耕作放棄地の活用

- ① ソバの栽培をする。
- ② ソバの食文化を学ぶ、ソバ打ち体験をする（上記①に合わせて）

2 眠っている山林資源の活用

- ① キノコの栽培をする。シイタケ菌の植菌作業をする。（植菌した原木は参加者に持ち帰ってもらう。）
- ② キノコの食文化を学ぶ。
キノコの料理を楽しむ（上記①に合わせて）。

協働の主体・役割分担

協働の主体	役割分担内容
草間台エコミュージアム推進協議会	事業の詳細な企画立案・準備・当日の運営・後始末
備中県民局	広く県内外への参加者募集PR、内容の検討

実施状況

- 8月18日 そばの栽培を楽しもう
・そばまき、桃収穫体験、草間地域の自生植物見学
- 10月27日 そばの刈り取りにチャレンジしよう
・そばの刈り取り体験、そば打ち体験、リンゴ狩り体験
- 3月 3日 きのこと栽培講習会を開催

成果・効果

- ・草間台地の自然や産業（農業）などの豊かさを再認識したり新たに発見できた。
- ・草間台地住民の郷土に対する愛情と誇りが増した。
- ・都市住民・企業等との交流が深まった。
- ・地域外に発信することができた。
- ・耕作放棄地を解消し、地域の振興に結び付けることができた。

来年度以降に向けての展開

- ・都市住民との交流を通じて草間地域を理解してもらい、地域の活性化につながっている。
- ・来年度も引き続き、事業に取り組んでいきたい。

協働事業提案募集採択事業 1 2

〓 事業名 〓

「高梁地紅茶まつり」の開催と備中宇治茶の生産振興

〓 事業の概要 〓

高梁では、平成15年から地元茶葉を使用し、高梁農村生活交流グループ協議会が共同で紅茶の加工に取り組んできた。21年から百姓のわざ伝承グループが製造・販売を引き継ぎ、専用の製茶場を設置し量産体制を整えた。また、地元茶農家と連携し茶の生産振興も図っている。そこで、この「高梁紅茶」の存在をアピールするとともに茶産地の活性化を図ることを目的とした「高梁地紅茶まつり」を開催した。全国の地紅茶生産者も参加し、全国各地の地紅茶が集結したまつりは、地紅茶を広く消費者にPRする機会となった。

〓 協働の主体・役割分担 〓

協働の主体	役割分担内容
百姓のわざ伝承グループ	・茶農家との連携、企画全体のコーディネート
高梁地紅茶まつり実行委員会 （百姓のわざ伝承グループ 高梁商工会議所、備北商工会 びほく農業協同組合、高梁市 高梁農業普及指導センター）	・高梁地紅茶まつりの企画及び運営 ・全国地紅茶生産者への情報発信、参加呼びかけ ・地紅茶まつり開催に当たっての広報・宣伝

〓 実施状況 〓

〔高梁地紅茶まつりの概要〕

- 開催日 平成24年11月23日（金）、24日（土）
- 主な内容及び日程
 - 11月23日（金）
 - 14：00～14：20 開会式典
 - 14：20～16：30 シンポジウム「地紅茶の品質向上と普及について」
 - 11月24日（土）
 - 8：30～9：20 地紅茶列車（特別列車：岡山駅⇔備中高梁駅）
 - 10：30～12：00 講演会「国産紅茶の未来化」講師：磯淵 猛氏
 - 13：00～15：15 地紅茶セミナー
 - ①「美味しい紅茶の淹れ方」講師：宮本英治氏
 - ②「抗酸化作用とファイトケミカルズ」講師：江草聡美氏
- 来場者数 2日間延べ約2,000人

4 講演等の参加者数

項目	テーマ等	参加者数	参加者の分析
シンポジウム	地紅茶の品質向上と普及について	146名	県外83%、県内15%
講演	国産紅茶の未来化	126名	女性72%、県外63%
地紅茶セミナー	美味しい紅茶の淹れ方	67名	女性75%、30代37%
	抗酸化作用とファイトケミカルズ	30名	女性76%

5 地紅茶列車

乗客数：80名 スタッフ数：20名(列車内での接待、誘導他)

6 地紅茶カフェ

利用者数：874人(2日間) 全国の地紅茶9種類の飲み比べができるカフェを設置

7 屋外うまいもの広場（5団体が高粱地域の特産品を販売）

8 各地の地紅茶販売、高粱の特産品販売

[高粱地紅茶まつり活動写真]



[シンポジウム]



[磯淵氏の講演]



[江草講師の地紅茶セミナー]



[ヘッドマークをつけた特別列車]



[車内での紅茶提供]



[賑わった地紅茶カフェ]



[うまいもの広場で備中牛の串焼き]



[全国の地紅茶が勢揃いした販売コーナー]



[アトラクションの備中神楽]

|| 成果・効果 ||

- 1 地紅茶をテーマにしたイベントは初の試みであったが、県内外から大勢の来場者を得ることができ地紅茶ファン獲得に繋がった。
- 2 試飲コーナーで地元高粱の緑茶を提供したところ反響が大きく、茶農家の栽培意欲向上に繋がった。

- 3 「高梁紅茶」の知名度を上げることで、緑茶用の茶葉が紅茶に加工できるという認識を広めることができ、紅茶用の茶葉生産に結びついている。

Ⅱ 来年度以降に向けての展開 Ⅱ

- 1 栽培農家の高齢化が進み、耕作放棄となった茶園が増えてきているため、荒廃茶園の復活に取り組む。(紅茶応援団の育成)
- 2 地紅茶のまち‘高梁’を発信するイベントを開催し、紅茶による地域おこしに取り組む。